



H28年9月12日  
農芸高校 保健部

8月から大阪府内では関西空港を中心に

麻疹（はしか）患者が発生しています！！

【参照：大阪府ホームページ：<http://www.pref.osaka.lg.jp/>】

### ★どうやってうつるの？（感染経路）★

接触、飛沫、空気のいずれの感染経路でも感染します。その感染力は非常に強く、インフルエンザの5～6倍の感染力があると言われています。免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症します。また、麻疹ウイルスの直径は極めて小さく、マスクで予防はできません。



### ★どんな症状？★

潜伏期間は10～12日です。



38℃前後の発熱が2～4日間続いたのち、一旦少し解熱した後に再び高熱が出て、耳の後ろ～首～顔に発疹が出現し、翌日には顔面、体幹部、上腕に、2日後には四肢末端にまで広がります。発疹が全身に広がるまで、発熱（39.5℃以上）が3～4日間続きます。その後、解熱し、全身状態も回復します。

合併症のないかぎり7～10日後には回復しますが、体力等が戻って来るには1ヶ月位を要することも珍しくありません。

発熱する頃から発疹が出るまでの間、強い感染力があります。

学校保健安全法では、解熱した後3日を経過するまで出席停止とされています。

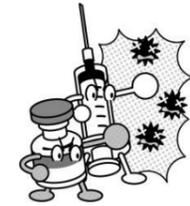
### ★かからないためには？（予防法）★

予防接種により予防できる病気です。

麻疹（はしか）にかかったことのある人はすでに免疫を獲得しています。

かかったことがない人は、有効な免疫を獲得するためには2回接種が必要です。

26歳～43歳の人では1回しか受けていない人が多く、また、26歳未満でも2回接種を受けていない人がいます。



☆みなさんが、予防接種を2回しているか、または麻疹（はしか）にかかったことがあるか確認しておきましょう。

麻疹（はしか）では30%近くに合併症を併発します。その約半数が肺炎です。そのほか、中耳炎や喉頭炎や喉頭気管支炎を併発することがあります。頻度はきわめて低いものの脳炎を併発することがあり、脳炎を併発してしまうと致死率は約15%にのぼり後遺症を残すこともまれではありません。

### ◆麻疹（はしか）の疑いがあるのは次の場合です◆

発熱、せき、鼻水、眼球結膜の充血、発しん等の「麻疹特有」の症状があり、

- ①麻疹患者と接触していた場合。
- ②麻疹流行国（特にアジアの国々）への最近の渡航歴がある場合。
- ③8月17日以降、関西空港を利用した場合等。



### ☆麻疹（はしか）患者と接触したと考えられる場合

麻疹（はしか）患者と接触後、3日以内に予防接種を受けると発症・重症化を予防する事ができるとされています。未接種の人はかかりつけ医等と相談してください。

### ☆麻疹（はしか）の疑いがある場合は、

学校を休み、早めに医療機関を受診してください。また、受診する際は、事前に医療機関に電話し、麻疹（はしか）の疑いがあることを伝え、指示に従ってください。